

フ
ア
ン
タ
ジ
ス
タ
ド
ー
ル

B
G
M
研
究
本
0
1

フ
ア
ン
タ
ジ
ス
タ
ド
ー
ル

B
G
M
研
究
本
0
1

はじめに

2013年の夏アニメ『ファンタジスタドール』は、ハートウォーミングで少し切ない物語、緻密に作り込まれた世界観、魅力的で多彩な個性を持つキャラクター、そして息をするようにブツ込まれるネタとその処理を視聴者に委ねていくスタイルによって、ニコニコ動画でのコメント率やコアなファン、カルト的な人気を獲得することに成功しました。

そんな『ファンタジスタドール』の音楽を担当したのは、『NARUTO』や『プリキュア』シリーズを担当する作曲家の高梨康治さんです。高梨さんは「ロックミュージシャン」として劇伴音楽作りに取り組んでおられ、数々の作品で自身の原点であるロック、とりわけメタルをベースにした独自の音楽世界を築き上げてきました。

そのひとつ、『プリキュア』シリーズで確立されたのが「キュアメタル」です。

高梨さんが『プリキュア』を担当されたのは、6年目から9年目にかけて。シリーズで言えば『フレッシュプリキュア!』から『スマイルプリキュア!』にあたります。『プリキュア』では、それまで音楽を担当していた作曲家の佐藤直紀さんが既に、「女兒向けアニメだからといって決して女兒をナメてはいない、骨太で熱い音楽」によって確固たる「プリキュア音楽」の世界を築き上げていました。そこに入って行く中で、高梨さんの「自分らしい音楽を作る」姿勢は見事に的中しました。「プリキュア」と「メタル」の化学反応は音楽のみならず演出にも多大な影響を与えるほどまでになりました。

「キュアメタル」という呼称も高梨さんや関係スタッフが提唱したものではなく、何と実は「ニコニコ動画につけられていたタグ」から始まったものなのです。とあるファンがつけたこの称号は、いつしか高梨さんの耳にも入り、その高梨さんが自分なりの「キュアメタル」を追求し、それがさらにファンの心を打つ。そんなことを何度も繰り返し、いつしか「キュアメタル」はジャンルとして成立するまでになりました。

その「キュアメタル」が歴史上初めて『プリキュア』から独立して歩み始めた作品。それが、『ファンタジスタドール』なのです。

本作の音楽は明確に「キュアメタルで」との要望に基づいて作られています。それは単なるセルフパロディではなく、真摯に「プリキュアの次のキュアメタル」「キュアメタルの進化形」として作られています。『プリキュア』では見られなかった要素もいくつも新たに盛り込まれています。

本書は『ファンタジスタドール』ファンの方々を対象に、本作の音楽をさらに深く知るための手がかりとして作りました。

さらにこの本では、高梨さんがご多忙の合間を縫ってインタビューに答えてくださいました。気になるけど公式の本には絶対載らない話から筆者以外誰が得をするのかわからないマニアックな話まで、たくさんのお話をお伺いしてきました。

本書を手にとってくださった『ファンタジスタドール』を愛するみなさまに、この作品の音楽世界のルーツとなった「キュアメタル」への興味を深めていただければ幸いです。

目次

高梨康治インタビュー……	06
『ファンタジスタドール』音楽……	12
『ファンタジスタドール』BGMリスト……	13
各話BGM使用リスト……	14

高梨康治インタビュー

たかなし・やすはる…作曲家、キーボーディスト。音楽制作集団「Team-MAX」所属。メタルを音楽的原点とし、オーケストラや和楽器、ケルト楽器、クワイアなどを巧みに取り入れ独自の音楽世界を構築している。『プリキュア』シリーズでは『フレッシュプリキュア!』『ハートキャッチプリキュア!』『スイートプリキュア♪』『スマイルプリキュア!』のTV4シリーズとその劇場版、また『プリキュアASDX1』および『プリキュアASNS』シリーズを担当。その作風とともに、いつしかファンによって「キュアメタル」と呼ばれるに至った。他の代表作は「PRIDEのテーマ」や、近年では『NARUTO-ナルト-疾風伝』『FAIRY TAIL』『織田信奈の野望』『ファンタジスタドール』『ログ・ホライズン』『熱風海陸グシロード』『美少女戦士セーラームーン Crystal』など。

■「キュアメタル」現象

—キュアメタルは、もはや本当に一つのジャンルになった感があります。ファンの間での盛り上がりやをどんどん高梨さんがパワーに変えていくのは、まるでプリキュア映画のミラクルライト¹のようでした。

10代からインディーズでやっていたので、常にファンの人達は近かったんです。自分達で盤を作って、それをライブハウスで手売りしていました。応援してくれる人達がバンドを育てていた、という感覚があったので、今回のキュアメタル現象はその図式に似ているなど感じています。

—全ての始まりとなった「キュアメタル」タグは、ニコニコ動画という場だからこそ生まれたのかなと思います。

その通りですね。あれは嬉しかった。実は、ニコニコ動画ほど優れたマーケティングリサーチはないと思っているんですよ。ニコ動を見ることによってみんなの率直で正直な意見が分かるので、すごく参考になります。

『フレッシュプリキュア!』から『ハートキャッチプリキュア!』への時期は結構ニコ動を見ていましたから、みんなが何を求めているのか、みんながどういうことを喜んでくれるのか。どういうことには無反応なのか。コメント極端に少なっ、みたいなの。(笑) そういう中で、みんなが反応してくれた部分を拡張していったという面はあると思います。

—テレビを見ていても、バラエティ番組などで「キュアメタル」がよく使われていますね。音効さん業界の人気も高いようです。

らしいですね。変身BGMとか、よく使われていると聞きます。

—キュアメタル現象で面白かったのは、ニコニコ動画などで演奏動画がたくさん上がったことですね。「弾いて

みた」とか。

ニコニコで『フレッシュプリキュア!』の変身テーマ「プリキュア・ビートアップ!」(M03)をドラマで演奏して「叩いてみた」動画を上げてた人がいて、上手いんですよ。この人リアルに呼びたいな—とか思ったりしました。(笑) —音楽の道を諦めた、離れた人達に再び火を付けたという話も多く聞いています。お父さんがギターでキュアメタルを弾いたら、娘さんのヒーローになった、とか。

それは嬉しいなあ。僕の音楽活動での重要なテーマになっているのですが、子供の頃から音楽の英才教育を受けてきた人だけでなく、僕のような“雑草”が風穴を開けることで劇伴の世界に一石を投じていきたいと思っています。みんなが「あいつだってできるんだから」と思ってくれたら嬉しいですし、「夢って叶うんだよ」っていうことを体現していきたいと思っています。

—存在自体が、まるでプリキュアのように。

中学2年の頃には音楽一本でどこまで上っていけるかやってみたかったですし、そういう人間が這い上がっていくことがロックだと思っています。周りの人に「自分もがんばってみようかな」と夢や希望をもってもらえたらいいなと思って、ずっとやっています。

—高梨さんのキャリアは多数の作品とともに年々凄いくちになっていくのに、失礼な話ですが、ご本人が親しみやすいお人柄で、こうしてお会いしても安心します。

勘違いしちゃいけないのが、自力でなっているわけじゃないから。聞いて楽しんでくれる人、周りでフォローしてくれる人がいて、その上でなっているわけです。あくまでも僕は象徴的な存在でしかなくて、本来ならばみんなが評価されるべきだと思っています。

1 プリキュア映画に登場する、プリキュアにパワーを与えるアイテム。

2 「【指ドラの人】フレッシュプリキュア「変身時のBGM」を叩いてみた」<http://www.nicovideo.jp/watch/sm7888326>

■オープニング「今よ!ファンタジスタドール」

—初めて聴いたときは本当に嬉しかったです。高梨さんがプリキュアを離れ、あまり今後はキュアメタルらしい曲を聴く機会もないと思っていたら、いきなりド直球が。

—そうでしょ。(笑) 『プリキュア ASNS2』³のレコーディングが終わった頃は「これでキュアメタルも終了か…」と寂しい気持ちがありました。ちょうどその時期に『ファンタジスタドール』の打ち合わせで東宝さんに行った時、スタッフからの第一声が「キュアメタルをやってもらいたいですよ」と。(笑) 「えっ、いいんですか?!」って、喜んでました。

—「ファンタジスタドール コンプリートブック」のインタビューでも触れられていましたが、それを知った時は嬉しかったです。「キュアメタル」が業界内でも定着していたんだと。

—それもやっぱり、プリキュアファンのみなさんのおかげだと思っています。先日出た「プリキュア 10 周年公式アニバーサリーブック」のメッセージにも、ミドルネームにして書きました。あれは僕からみなさんへの、感謝の思いです。これは Twitter でもウケてましたね。(笑)

—ご本人が、「高梨キュアメタル康治」って。(笑)

—音楽はエンターテイメントだと思っているので、みなさん楽しんでもらえたらいいなと。ロックミュージシャンなので、「お客さんを楽しませる」という大前提があるのかな。

—この曲の代名詞ともいえる「ファンタジスタドール」というコーラスは歌詞ではなく、高梨さんのアイデアなんですか？

—これも僕です。

■エンディング「DAY by DAY」

—この曲も大好きです。

—いいでしょ。(笑) プリンとケンジは一人前になったので、次はチャッピーに任せてみようかなって。チャッピー

3 歴代プリキュアが全員集合するプリキュア春映画の第5作で、『NewStage』シリーズの第2作。当初NSシリーズは同作で終了となる予定で、高梨さんのプリキュア参加もこれがラストとされていた。

4 Team-MAX 所属の作曲家・水谷広実さん。『トリコ』『神さまのいない日曜日』『のんのんびより』などの音楽を担当。

5 Team-MAX 所属の作曲家・ギタリスト、藤澤健至さん。多くの高梨作品でギターやを担当するほか、『スイート』以降のプリキュアシリーズのボーカルアルバムに楽曲も提供している。

6 Team-MAX 所属の作曲家・キーボーディスト、片山修志さん。

にはエンディングではなくオープニング主題歌を作るつもりでいけ、と言いました。

—最終話のラストは泣いてしまいました。反則です。

—だからチャッピーに言ったんだよ。「おいしいとこ持っていきやがって」って。(笑)

—あれをやるために最終話は「エンドシーケンス」でクレジットを出したんですよね。

—こういうのを仕込む人達は凄いな。全部先を見越して。

■ファンタジスタドールBGM

—『ファンタジスタドール』の世界観はプリキュアと大きく異なっていますが、「キュアメタル」が描く部分とはまた別の「切なさ」や「儚さ」といった要素でも、高梨さんの持ち味との相性が良い作品だったと思います。

—そう言っていただけと嬉しいです。

—サントラが発売された時は需要が店頭入荷数を遥かに上回り、一時はAmazonでも高騰するなど入手困難になっていました。「FDサントラ難民」という言葉を生むほどに。

—あれは、ありがたかったです。在庫切れにはびっくりしましたね。僕も初めて見ました。

—M ナンバーを見ると汎用曲と各話ごとの曲に分かれているように見えます。

—そうです。レギュラー曲と特定シーン用の曲とに分かれています。実際はそれにこだわらずに選曲されています。

—「ファンタジスタドールメインテーマ」(M3-A)、本当に大好きです。

—これは「プリキュア」を作ろうと思いました。(笑) プリキュアでやってきたことについては満足していますが、「もし僕がプリキュアを続けていたら、次はどんな変身テーマにしたらろう」というイメージで作っています。

—メインテーマにはいくつかバージョン違いが？

—イントロ部分のテイク違いが何バージョンがあります。

—「ドール集合」(M3-D)も、プリキュアでいうと「決意のテーマ」といった感じで熱くなります。

—そうです。これは実際、そういうイメージで作っています。

—「大逆転」(M3-F)は、『ハートキャッチ』や『スマイル』のような「後期の全員合体技」に通じるものを感じます。

—これは「キュアメタルを作ろう」と思いました。(笑)

—『ファンタジスタドール』のエンディングテーマ「DAY by DAY」を作曲。ほかに『ゆるめいつ3でい』などの音楽を担当。

—最初の使用は「サバ」のシーンだったんですね。

あ、サバのシーンだよ。そうだよ。 (笑)

—あと、「しめじブチ切れ」のシーンでも。

「ステゴロのしめじ」だね。 (笑)

—そして、満を持しての「協力カノン」。大好きなキュアメタルで好きな展開なのに、「戦車」や「ドラムロール」で脳のリソースを喰われて変なテンションになったのを今でも思い出します。

これは面白かった。 (笑) 『ファンタジスタドール』は、作品内にツッコミが不在で投げっぱなしになっているのが面白いんですね。

—昨年 (2013) 末にあった主演声優さん達が出演されたイベント⁷でも、『ファンタジスタドール』はみんなでツッコみながら観ると本当に楽しい」という話になっていました。

そうそう。あれは意図的に視聴者がツッコめるようにしてあるらしいんですね。

—「うずメタル」 (M3-G) は、追加で作ったのですか?

この曲は打ち合わせが終わった後、帰り際に斉藤監督と一緒にした時に「ジャーマンメタルみたいな曲も1曲欲しいな」とおっしゃってたので、じゃあメニューないけどやっちゃおうと。 (笑) これもプリキュア的なテイストがあります。どちらかといえば、ASNS2の「プリキュアオールスターズ大活躍」の血を引いてるかなと。

—「うずメタル」というネーミングは高梨さんですか?

これは、東宝のスタッフが「うずメタルってどう?」って。「いいんじゃないすかー」という話になって。 (笑)

—「事件解決」 (M4-A)、ニコニコ動画では似た形のメロディラインを取る別の曲に関連して、「マリオネット」というコメントが…

実は、その曲を聴いたことはなかったんですよ。僕らの世代はそこを聞いていないので。ただ、そう言われたから実際に「Marionette」を聴いてみたら、「あ、ホントだよ…」と。 (笑) こういうこともあるんだなって。

—「ラフレシアの君」 (M5-B) は、『美少女戦士セーラームーン』の「タキシード仮面のテーマ」 (I-1) を彷彿とさせます。

これは明確に意識しました。オーダー自体が「タキシード仮面のテーマのような感じで」、ということでした。これは、完全なリスペクトです。

7 2013年12月15日「ファンタジスタドール クリスマスパティー 2013」

—それがまさか、その『セーラームーン』を高梨さんがやることに。

そうなんだよー。 (笑) だから『セーラームーン Crystal』では、逆に苦労しました。 (笑)

—「文化祭の賑わい」 (S8-A) は未収録ですが、個人的に好きです。「例のサンバ」と呼んでいます。

あ。これかー。 (笑) サントラは、わかりやすいえば「自分のイメージから遠い」曲から省いたんですよ。どうしてもサントラに収録できる時間は決まっていますから。

—でも漏れた曲ってどうしても気になっちゃうんですね。「マドレーヌのお節介」 (S3) も個人的に好きです。

どうしても、抜くときにこういうのから抜いてっちゃうんだよね。 (笑)

—メインテーマが抜けたりしたら大変ですもんね。

これがまた難しく、2枚組にしたら価格が高くなってしまいます。すると気軽には買えなくなってしまうんですね。

—予告の曲は?

これは「うきうきな戦い」 (M3-B) からの切り出しですね。

—アイキャッチの曲に、あんな長い続きがあったのも驚きました。

実はアイキャッチ用の曲は別にあっ⁸たんですが、本篇のアイキャッチ曲は、音響監督の鶴岡さんがこのOPアレンジを編集したんですよ。これは僕もびっくりしました。「マジか、アイキャッチ変わっちゃったよ!」って。 (笑) でも、むしろ良かったと思っています。

—本来のアイキャッチ曲はどんな曲ですか?

プリキュアっぽい感じの、かわいらしい曲でした。

—アバンのナレーションは、メインテーマ後半からの切り出しですね。

そうです。

—1と2とあるのは?

テイクだったような…。曲の違いはないと思います。

—「ドールへのエントリー」 (S1-C) も、個人的に好きです。プリキュアとはまた違う感じがして。

このへんの感じは、『地球へ…』に近いですね。『ログ・ホライズン』でもこういったサイバー系の曲をやっています。

—「ドラムベース」 (M5-A)、「トランプゲーム」 (S10) もですね。

8 M6-C、M6-C2の2曲がJASRACに登録されている。

9 M6-A、M6-A2の2曲がJASRACに登録されている。

そうですね。このへんの曲は音色勝負になってくるんですよ。そこで活躍するのが高山くんです。

—1曲だけ、ナンバーが推定できないBGMがありました

これはアドリブかな…。メニューになかったものの、こんな曲があればいいかなと即興で弾いたような気がします。たまに、現場で生まれた曲というのもあったりします。

■「キュアメタル」のつくりかた

—私が好きな高梨さんの曲って Em が多い気がします。

Em、Dm、Bm、Am はギター解放弦が使えるので、リフを作りやすいのです。キュアメタルは、ほとんどそのキー限定です。

ちなみに Bm は 7 弦ギターなので、6 弦ベースのタキヤンじゃないと弾けないんです。で、タキヤンはコントラバスがいるとベースが動きづらから抜いてくれって言います。(笑) コントラバスは、あえて抜いてある曲があります。ベースがランニングする時にコントラバスがあると干渉するので、「動き辛えよ!」って。(笑) その場合は、チェロまでしか入れません。すると、下が自由に動けるようになるので。

7 弦ギターとは、普通のギターに低弦を増やしてよりヘヴィな音域が出るようにしたものです。メタルをやる人の間でも、割とディープな人達が使う楽器ですね。加えて僕はコントラバスも 5 弦を扱える人に来ていただいて、通常の最低音が C になるようしてもらっています。クラシックでは邪道かも知れませんが、それによってビオラ、チェロ、コントラバスの最低音が共通 C になってヘヴィなユニゾンが可能になるんです。

10 シンセオベレーター、高山淳さん。高梨作品のシンセ音色を一手に引き受ける。

11 ホ短調。調号は#が1個。『フレッシュ』『決意のテーマ』(M48)『燃え上がる闘志』(M64)、『スイート』『プリキュアの使命を胸に』(SU13)などが、この調で書かれている。

12 ニ短調。調号はbが1個。『ハートキャッチ』『堪忍袋の緒が切れました!』(H07d)、『スイート』『心のビートは止められない!』(SU118)、『ASNS2』『プリキュアオールスターズ大活躍!』など。

13 ロ短調。調号は#が2個。『スイート』『登場!謎のプリキュア』(SU14)など。

14 イ短調。調号なし。『ハートキャッチ』『明日への戦い』(H103a)、『スマイル』『勇気のプリキュア』(SM09B)など。

15 ベーシスト、瀧田イサムさん。六三四 Musashi などで活躍し、多くの高梨作品でベースを担当。GRANRODEO のライブサポートとしても活躍中。

—弦楽器のアレンジでの使い分けはどのように?

僕は全くの自己流でオーケストレーションをやってきたんですが、僕の感覚でいえばチェロとビオラがギターの役割です。で、バイオリンがリードギター。よく写譜屋さんや演奏者の人に言われるのが、「ビオラをこんなに動かす人に会ったことがない」って。(笑) 僕にしてみればギターリフの部分なんです。

よく課題になるのが、チェロやビオラとギターの帯域が同じ所に来ることです。そこを、どうお互いに居場所を作るかですね。

—ギターのアドリブは、どこからがアドリブなのですか?

譜面にはどの程度まで指示してあるのですか?

臨機応変です。ある程度 MIDI で打ち込んでいる段階でフレーズを決め込んでいるものもありますし、ケンジに任せる場合もありますし。ケンジとはもう 10 年近くなので以心伝心な部分もあって、「高梨さんがほしいのはこれでしょ?」という感じでやってくれますし、僕が作っておいたフレーズに色をつけて「それ以上」にしてくれることもあります。

—シンセ音色も「キュアメタル」馴染みの音があります。

シンセの音は全て、高山くんの音です。彼は魔法の玉手箱です。「こんな音ないかな?」って言うと、出てくるわけですよ。それで「いいんじゃない?」とそのまま曲にする場合もあったり。自分の音源でやっているときは「これ大丈夫かなあ」と思っている、高山くんが音作りをすることによって「あっ、いけたぞ」と。(笑) 僕は高山くんの音源はある程度把握していますし、高山くんも僕の趣味を把握しています。1日に2曲、3曲と作っていかなければならない場合は音色のエディットまで間に合わなかったりするんですが、高山くんが音作りをしてくれます。

—よく聞くキラキラ音も高山さんの音ですか?

これは、僕らの間で「キュアベル」と呼んでいます。「高山くん、キュアベル出して」と言うと出てきます。このベルの音は、『フレッシュ』の頃から音色を変えていません。

高山くんはキュアベルを作るために何種類ものシンセやエフェクターを組み合わせでエディットしています。それ

16 譜面を起こす職人。近年は PC 等での出力が多く、活躍の機会が減りつつある。

17 PC などで電子楽器の自動演奏を制御するための規格。

18 Team-MAX 所属の作曲家・ギタリスト、藤澤健至さん。多くの高梨作品でギターを担当するほか、『スイート』以降はボーカルアルバムに楽曲も提供している。

が一つのプリキュアのカラーだなんて思って、「キュアベル」と呼んでいます。他の帯域を邪魔しないように、一番高域でキラキラ鳴るようになっています。

一他にもキュアメタル独特の音色は、ありますか？

『ファンタジスタドール』の「うずメタル♪」でも使っていますけど、「キュアモーグ」と呼んでいる音色があります。モーグというシンセサイザーがあるのですが、「高山くん、ここはキュアモーグ」とか。(笑)

一譜面などは、どのような感じですか？

僕の譜面は面白いですよ。細かい音楽用語とか、「歌うように」とか「不気味に」とか「あやしく」とか、日本語で書いてあったり。(笑)

一記号ならともかく、雰囲気などは日本で作られる曲は日本語で指示されるべきだと個人的にも思います。

そうだよー。

一BGMのMIX違い等はどなたが決めているのですか？

リズム抜きやリズム Only のようなトラックダウン時の作り分けは、「こういうのがあると便利だな」というものを僕が独自に作っています。

音響監督によって様々な考え方があって、はたさんの場合は「抜き」は不要だと。「何か欠けると曲のバランスを崩す」と。なので『FAIRY TAIL』の場合は、「抜き」をごく僅かしか作っていません。

一プリキュアの水野さんは『セーラームーン』の頃から拝見していますが、「抜き」からフル編成へ繋げていく編集がとても巧みだなと思います。

そうそう。上手いですよー。

一『スイート』第23話のキュアビート変身シーンでの「プリキュアの使命を胸に」(SU13)と「Light ver.」の編集は特に秀逸だったと思っています。

エレンがハミのピンチでキュアビートに変身するシーンは、泣けるんだよね…。

一トラックダウンは毎回、青砥さんなんですね。

19 発想標語は元来イタリア語で書かれていたが、ベートーヴェンなどロマン派以降の作曲家は自国語でも書くようになった。

20 音響監督のはたしょう二さん。『FAIRY TAIL』や『ログ・ホライズン』を担当

21 スワラプロの選曲家、水野さやかさん。「S」中盤以降の『美少女戦士セーラームーン』シリーズおよび『夢のクレヨン王国』以降のプリキュア枠を、茅原万起子さんから引き継いだ。

22 レコーディング/ミキシングエンジニアの青砥州比古さん。高梨作品の録音とミックスを一手に引き受けている。多数の高梨作品が生まれた舞台・Studio A-TONEを運営する(株)フリーマーケットの代

青砥さんは頑固職人です。(笑) 普通のエンジニアさんは作家さんの指示に従いますが、「青砥さんこれ上げてください」って言うと、「やだ、上げさせない。」「これがベストなんだ」って。(笑) あと平気で「高梨、今回アレンジ悪いんじゃないの」って言うし。(笑) ただ、僕はいつも思っているんですが、自分に従順な人ばかり周りに集めたら、自分は終わる、と。自分に手厳しい人を周りに置くことで自分は成長できていると思っています。

一マスタリングも最近²³は鈴江さん²⁴が毎回担当ですね。

レーベルや委託がソニーミュージックではないものまで。

僕が鈴江さんのマスタリングが好きなので、わがままを言ってやってもらっています。

一高梨さんの曲は「聴いて一発でわかる」気がします。曲だけを聴いて「おや?」と思い調べてみたら高梨さんだった、ということが何度もありました。

そう言ってもらえるとても嬉しいですし、そうなりたいなと思っています。「ファンがバンドやアーティストに求めるもの」というのがあって、それをアーティスト側がちょっとひねったりするとファンをがっかりさせてしまうんですよ。僕は「こんなのだとみんなが楽しんでくれるだろうな」というものを作っていきたいと思っています。「ワンパターンは、やり続ければ個性」だと思っているので。僕は「5秒で自分だとわかる」ようなものが作りたいですね。メロディの癖とかは意図的に「僕らしく」しています。

トラックダウンは青砥さん、マスタリングは鈴江さん、とエンジニアを固定しているのも、「この人の音って出た瞬間にわかるよね」っていうのはメンバーチェンジをしないことだと思うからこそです。

■ Team-MAX

一プリキュア以外の作品でも感じますが、Team-MAXは本当に良いチームだなと思います。

僕らはバンドに近い感覚だと思っています。ある時期に、「多くの人が関わっていくうちに予算がどんどん中抜きさ

表取締役を務める。

23 CDを作る際、最後に音を調整する重要な工程。このデジタル時代に同じ音源がTVとCDで全く違って聞こえるのは、この工程での入念な仕上げによる要素が大きい。

24 ソニー・ミュージックスタジオのマスタリングエンジニア、鈴江真智子さん。プリキュアCDのマスタリングを担当するメインのエンジニア。近年の高梨作品CDを、レーベルの枠を超えて担当している。

れていくやり方ではなく、“産地直送”で良い音楽を作ることに全力を傾けられるクリエイター集団を作りたい」と思い立って、そういう考え方のもとに Team-MAX を始めました。

僕が Team-MAX のみんなに言っているのは、「仕事だと思ふな」ということです。僕らが音楽を始めた時って、最初は趣味だったわけです。大人が報酬をもらって「真剣に遊ぶ」「真剣に楽しむ」。僕らが楽しんでやっていると、聴く人にそれは伝わります。楽しく音楽を作って、それを楽しんで聴いてくれる人へ届けられれば、それ以上何を望むかと。Team-MAX の理念は「仕事ではなく、遊び」なんです。祥太くんも遊びや趣味だったら、いくらやっても楽しいでしょ？

—友人達からプリキュア関係の依頼があると、喜んで引き受けちゃいますね。

僕らもその感覚で曲作りに取り組むようにしています。
—学生の頃、みんなでワイワイ楽しくやっていた感じを思い出します。

そう、僕はそれを持ち込みたいと思っています。僕がアニメを主に担当するのも、アニメの現場のスタッフの作品愛を強く感じるからです。自分がこの作品にどれだけ思いを込めているか、という話をそれぞれの監督さんはされますし、現場のスタッフの方々も。

—昔想像していた感じだと「メニュー表が降りてきて、スコアを納品する」のが劇伴作曲家の仕事だと思っていたので、高梨さんのようにスタッフと仲良くなって作品を愛してくださる作曲家はファンとしても嬉しいです。

僕らは「なんでそんなに手間暇かけるの？」と言われたりするけど、「趣味だから」。「楽しいから」。(笑)
そうでなければ、みんなが楽しいと思えるものを作れないと思っています。

—Team-MAX の後輩の方々の活躍も目覚ましいです。

プリンやケンジには、「俺の曲がへぼくなったら言って」と言っています。ケンジは「高梨さん今回雑だったんじゃないですか？」とか言いますよ。(笑)

後輩達には、僕のイズムを引き継いでいってほしいと思っています。プリンとケンジはもう一人前に育ったし、²⁵ 今度はチャッピー、ジローを推していきたいなと思っています。彼らが一人前に育って、「Team-MAX 出身」とし

²⁵ Team-MAX 所属の作曲家・ピアニスト、加藤賢二さん。『ファイヤーレオン』オープニング主題歌「ファイヤーレオンの歌」の編曲を担当。近年の高梨作品ではピアノ演奏で参加している。

てたくさんの人に夢を届けていけたらいいなと思っています。

■『美少女戦士セーラームーン Crystal』(2014)

—私も含めたファン達にとって、旧アニメの有澤さん²⁶の音楽には22年分の思い入れがあるので、「変化」に対するリアクションは『フレッシュ』以上に大きなものになると予想されます。

叩かれることも覚悟。(笑) でも、本当に気合が入りました。『美少女戦士セーラームーン Crystal』の音楽はキュアメタルの超進化形、クワイアに重きを置いたキュアメタルになっています。いつもの Remi ちゃん達のコーラスが40人の大合唱になってて、凄いです。

■これからも進化し続けていく「キュアメタル」

みなさんにもらった「キュアメタル」がずっと進化し続けていけるように、これからも大切に育てていきます。

僕はこれからも、たくさんの人達に楽しんでもらえるような音楽作りに命をかけていきます！

(インタビュー収録:2014年3月14日/聞き手・文責:祥太)

高梨康治 & Team-MAX 『ファンタジスタドール』 ディスコグラフィー

2013年7月17日「今おファンタジスタドール」(THCS-60004)

2013年7月17日「DAY by DAY」(THCS-60005)

2013年9月20日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 1」(TBR-23241D)

2013年10月25日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 2」(TBR-23242D)

2013年11月22日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 3」(TBR-23243D)

2013年12月18日「ファンタジスタドール オリジナル・サウンドトラック」(THCA-60021)

2013年12月20日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 4」(TBR-23244D)

2014年1月24日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 5」(TBR-23245D)

2014年2月21日 Blu-ray/DVD 特典「Special CD 6」(TBR-23246D)

²⁶ 作曲家の有澤紀さん。コーラスグループ出身で、コーラスを持ち味とした。2005年11月にご逝去。『美少女戦士セーラームーン』シリーズや『デジモン』シリーズなどで音楽を担当。プリキュア枠でも『ピクリマン』シリーズや『夢のクレオン王国』の音楽を担当した。

²⁷ Choir。聖歌隊のような形式による合唱。

『ファンタジスタドール』 音楽

◆「キュアメタル」を継ぐもの

本作の音楽は製作スタッフから「キュアメタル」というオーダーのもとに依頼があったことが既に明かされているが、しかし単なるプリキュア音楽のトレースとはなっていない。「正統な後継」として、進化を遂げた形になっている。

◆音楽メニューから読み取れる演出方法論

本作は1クールアニメーションであるため、当初からシリーズ全話の見通しが立った状態で音楽も発注されている。音楽メニューは大きく分けて「全てのエピソードで共通して使用できる汎用のM系列」と、「特定エピソードの特定シーンのために用意されたS系列」に分類される。

もっとも、実際の選曲はこの原則に縛られることなく臨機応変で柔軟に行われている。たとえば2話のために用意されたはずの「兵士ドール (S2-C)」「緊迫した戦い (S2-B)」はいきなり1話から使われており、終盤エピソードの要となる11話用の「カードの秘密 (S11-A)」も、早くも2話で使われた。

本作の音楽は全曲が一度に製作されており、「エンドシーケンス (S12-C)」も当初から発注されていた。すなわち、最終話のエンディングの演出も製作開始時点からの決定事項であったことがわかる。

また汎用曲のメニュー指定からは「演出上どの要素が重視されていたのか」、そして特定シーン用のメニュー指定からは「ストーリーの中でどのイベントがキーになっていたのか」をある程度推測することができる。例として「お風呂タイム」に専用曲が発注されている点などは、本作が入浴シーンを重視していることの証左でもある。

◆主題歌と劇伴に同じ作家を起用

本作のオープニング主題歌「今よ!ファンタジスタドール」は、劇伴音楽と同じく高梨氏による作編曲である。主題歌と劇伴を同じ作曲家が担当することは70年代までは珍しいことではなかったが、分業が進んだ現在では数える程に少なくなっている。

主題歌と劇伴を同じ作曲家が担当することはビジネス的な展開を閉ざす側面がある一方で、「未来に残す作品」としての完成度や一体感を上げる効果が高い。

◆アイキャッチ

インタビューでも言及されているが、本作のアイキャッチは専用曲ではなく、OPアレンジとして用意されていた曲を音響監督の鶴岡氏が編集して使用している。仕様にあたっては尺に合わせるため、タイムストレッチ加工が行われている。高梨氏によれば本来のアイキャッチ曲は「かわいらしい」曲であったということである。

◆未収録BGM

通常、サントラに収録されなかったBGMについてはその情報を得る手立てはほとんどない。本作は音楽の著作権管理を担当する東宝ミュージック(株)がBGM単曲を一つ一つ「Mナンバー+メニュー表記」という形でJASRACに作品登録していたため、音楽メニュー表を再構築することができた。これにより、未収録曲についても曲調や使用状況からはほぼ推測が成り立っている。

◆製作スタッフとのコンビネーション

「コンプリートブック」における製作スタッフのインタビューからも窺えるが、斉藤監督をはじめとしてスタッフの高梨氏との信頼関係が強く、高梨作品への愛着も大きい。インタビューでも言及されているとおり、「うずメタル」という名称は東宝側から提案されたものである。その「うずメタル」も、打ち合わせ終了後の斉藤監督のちょっとした一言を高梨氏がキャッチして具現化したものであった。

次ページには、『ファンタジスタドール』BGMの全体像を知る手がかりとなる推定BGMリストを掲載した。あくまで情報断片からの再構築であり正確さは保証できないが、未収録BGMを含めた大部分の楽曲がこのリストによって説明がつく。

また14ページ以降には、各エピソードにおけるBGM使用リストとともに、それぞれの使用箇所の簡単な概要のメモを記した。DVDまたはBlu-rayで本作を鑑賞する際に、気になった曲をサントラで探すための参考としていただければ幸甚である。

『ファンタジスタドール』 BGMリスト (推定)

※この表はJASRACへの登録をもとに推定したもので、実際の制作資料ではありません。収録情報は異なる場合があります。

ナンバー	発注メニュー指示	サントラ収録	特典CD収録	サントラタイトル	備考
M1-A	何という事はないいつもの日々	OST-03		日常	
M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	BD3-04	うきうききな毎日	
M1-C	寂しい空間	OST-10		暗室空間	
M2-A	ジブジブと裏で	OST-04		緊張	
M2-B	いがみ合い				
M2-C	委員会の始動	OST-05		委員会の策略	
M2-D	行動開始 (敵)	OST-11		行動開始	
M3-A	メインテーマ	OST-01	BD2-04	ファンタジスタドールメインテーマ	
M3-B	楽しい気分で戦い	OST-33	BD4-04	うきうききな戦い	
M3-C	委員会の刺客	OST-12		刺客	
M3-D	こちらもドールが勢ぞろい	OST-07		ドール集合	
M3-E	迫りくる敵	OST-13		緊迫	
M3-F	逆転スタート!	OST-14		大逆転	
M3-G	戦闘用うずメタル	OST-02	BD1-04	うずメタルト	
M4-A	事件解決	OST-18		事件解決	
M4-B	さあ帰ろう	OST-19	BD2-05	さあ帰ろう	
M4-C	お風呂タイム	OST-15		お風呂タイム	
M4-D	葬送行進曲				
M4-E	諦め	OST-16		あきらめ	
M5-A	ドラムンベース				
M5-B	ラフレシアのテーマ	OST-17		ラフレシアの君	
M5-C	一途な思い		BD3-06	一途な思い	
M5-D	友情という形の愛	OST-24		友情	
M5-E	不安	OST-25		不安	
M6-A	アヴァンナレーションバック 1				
M6-A2	アヴァンナレーションバック 2				
M6-B	サブタイトル				
M6-C	アイキャッチ				本篇未使用
M6-C2	アイキャッチ 2				本篇未使用
M6-D	次回予告				
S1-A	ホラービデオの BGM				
S1-B	ノスタルジー	OST-26		ノスタルジー	
S1-C	ドールへのエントリー				
S2-A	ささらの過去語り	OST-21		ささらの過去	
S2-B	緊張の戦い	OST-08	BD1-05	緊迫した戦い	
S2-C	兵士ドールの攻撃	OST-06	BD1-06	兵士ドール	
S3	マドレーヌのお節介				
S4-A	しめじの回想	OST-20	BD4-06	しめじの回想	
S4-B	深刻なうずめ	OST-22		悩むうずめ	
S6	小明の思い		BD5-06	小明の思い	
S7-A	落ち込むうずめ		BD4-05	落ち込むうずめ	
S7-B	必死な戦い	OST-27	BD3-05	必死 (戦闘)	
S8-A	文化祭の賑わい				
S8-B	非音楽的なサウンドコラージュ				
S9	かがみの苦悩	OST-23		かがみの苦悩	
S10	トランプゲーム				
S11-A	カードの秘密	OST-28		カードの秘密	
S11-B	葛藤するうずめ		BD6-05	葛藤	
S11-C	喪失感	OST-29	BD2-06	喪失感	BD2巻でのタイトルは誤記
S12-A	感動的大団円	OST-30		ファンタジスタの大団円	本篇未使用
S12-B	楽しかった過去の回想	OST-31		楽しかった過去	
S12-C	エンドシークエンス	OST-34		エンドシークエンス	
OP AR	OP アレンジ	OST-32		Now! Fantasia Doll	アイキャッチとして使用

このほか、いくつかの曲には録音時のテイク違いバージョン違いやトラックダウン時のミックス違いバージョンが存在する。

第1話 「うずめうずうず 忍び寄る怪しい影？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	S1-A	ホラービデオのBGM		
A	2	M6-B	サブタイトル		
	3	M5-D	友情という形の愛	OST-24	友情
	4	M1-A	何という事はないいつもの日々	OST-03	日常
	5	S1-C Light	ドールへのエントリー		
	6	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	7	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	8	S2-C	兵士ドールの攻撃	OST-06	兵士ドール
	9	S2-B	緊張の戦い	OST-08	緊迫した戦い
	10	M3-G	戦闘用うずメタル	OST-02	うずメタル♪
	11	M4-E	諦め	OST-16	あきらめ
	12	S1-B	ノスタルジー	OST-26	ノスタルジー
	13	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム
	14	M5-C	一途な思い	BD3-06	一途な思い
	15	M5-B	ラフレシアのテーマ	OST-17	ラフレシアの君
	16	M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	うきうっきーな毎日
	予告	17	M6-D	次回予告	

ホラービデオのBGM(S1-A)

アバン、ホラー映画のDVDを見ているうずめ。カットバックで研究所からカードを持ち出す男が描写される。

サブタイトル (M6-B)

三拍子でコーラスが入った短い曲。『スマイルプリキュア!』に近いテイスト。

友情 (M5-D)

カードゲーム大会で優勝した小学生時代の夢を見ていたうずめ。妹・みこに起こされ、一緒に登校する。

日常 (M1-A)

放課後、部活へ向かう生徒達。うずめはまないにカード部へ誘われる。

ドールへのエントリー (S1-C Light)

何者かに追われ逃げるうずめ。ユークリッドデバイスから聞こえてくる声が指示するままにエントリーを進める。

Now! Fantasista Doll(OP AR)

アイキャッチ音楽は、OPアレンジを編集した音源。

兵士ドール (S2-C)

かがみのドール、くのいちくうの襲撃。

緊迫した戦い (S2-B)

ささらの指示にしたがひ、例の呪文を詠唱してアウェイキングするうずめ

うずメタル♪ (M3-G)

くのいちくうに応戦し、勝利するささら。

第1話のみで使われ、いきなり視聴者の度肝を抜いた

バリバリのメタル曲。「キュアベル」や「キュアモーグ」といった音色も使われ、プリキュアで培われた「キュアメタル」の流儀に従ったアレンジとなっている。

あきらめ (M4-E)

ウソ泣きを織り交ぜながら、うずめにマスターになるよう迫るささら。

ノスタルジー (S1-B)

うずめを元気づける小町。

お風呂タイム (M4-C)

脱衣場に次々と現れたドール達。うずめは自覚のないままに、5人のドールのマスターとして契約していた。そのまま一緒に入浴する6人。

このアニメの見所でもある入浴シーンを飾った日常曲。

一途な思い (M5-C)

ささらの腕の傷を見つけ、ささらに自分を助けてくれた礼の言葉を述べるうずめ。

ラフレシアの君 (M5-B)

窓の外、電柱に立っていた「ラフレシアの君」。

この曲は「タキシード仮面のテーマ」のオマージュ。

うきうっきーな毎日 (M1-B)

「ラフレシアの君」という名前がツボに入るうずめ。つられて笑う、ささら達。

次回予告 (M6-D)

次回予告曲は、「うきうっきーな戦い」から切り出された15秒ほどの短い曲。

第2話 「ささらさらさら 仮にもマイマスター？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M5-A	ドラムンベース		
	2	M6-A2	アヴァンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	S1-C	ドールへのエントリー		
	5	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム
	6	M5-D	友情という形の愛	OST-24	友情
	7	M2-B	いがみ合い		
	8	S2-A	ささらの過去語り	OST-21	ささらの過去
	9	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	10	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	11	S2-B	緊張の戦い	OST-08	緊迫した戦い
	12	S2-C	兵士ドールの攻撃	OST-06	兵士ドール
	13	M3-D	こちらもドールが勢ぞろい	OST-07	ドール集合
	14	S11-A	カードの秘密	OST-28	カードの秘密
	15	M4-A	事件解決	OST-18	事件解決
	16	M4-B	さあ帰ろう	OST-19	さあ帰ろう
予告	17	M6-D	次回予告		

ドラムンベース (M5-A)

「例の呪文」を詠唱し、アウェイキングの特訓に励むうずめ。

アヴァンナレーションバック (M6-A2)

第2話以降毎回の恒例となるナレーションの曲。メインテーマの後半部分から切り出されている。本来ナレーション台詞にあった「ファンタジスタドール」は、オープニング主題歌冒頭のコーラスに譲る形で割愛された。

ドールへのエントリー (S1-C)

全く起きないうずめに、武器であるヨーヨーを駆使してメチャクチャな起こし方をする小明。

お風呂タイム (M4-C)

マニホールド空間から、任意の平面に現れることができるドール達。授業中、うずめのノートにドールが現れる。しめじにいたっては、何と校庭いっぱい投影された。

友情 (M5-D)

再びうずめをカード部に誘うまない。態度のはっきりしないうずめに、ささらはイライラを募らせる。

いがみ合い (M2-B)

うずめの態度を責めるささら。

アドリブで用意されたと思われる曲。

ささらの過去 (S2-A)

ささらの言葉が逆鱗に触れ、口喧嘩になってしまううずめ。ユークリッドデバイスとカードを「川越の研究所」にいる「元の持ち主」へ返しに行く。

緊迫した戦い (S2-B)

研究所内でトラップドール達の敵襲を受け、ささらを除くドールをアウェイキングするうずめ。ささらはふて腐れて、マニホールド空間にとどまった。

兵士ドール (S2-C)

うずめのドール達とトラップドール達の激闘。全員カードに戻ってしまい絶体絶命のピンチを迎えるが、間一髪でささら助けられる。

ドール集合 (M3-D)

「みんなの仇をとる」ため、自分も戦うことを決意するうずめ。うずめとささらは見事に勝利する。

プリキュアの決意のテーマに通ずる、マスターとドール達の絆と団結のテーマ。

カードの秘密 (S11-A)

社長室に入るうずめ達。完全耐火仕様で無傷のまま残っていた。カティアが本棚の本を取り出し、隠し扉を見つける。

事件解決 (M4-A)

レアカードを手に入れ、家路につくうずめ達。

さあ帰ろう (M4-B)

翼のカードの力で空を飛ぶささら。ささらは昼間の発言をうずめに謝罪し、自らの過去を話す。彼女はうずめをマスターとして認めるのだった。

第3話 「さくっと作戦 マドレーヌの献身?」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M6-A2	アヴァンナレーションバック		
A	2	M6-B	サブタイトル		
	3	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	4	M5-B	ラフレシアのテーマ	OST-17	ラフレシアの君
	5	S3	マドレーヌのお節介		
	6	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	7	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム
	8	M5-C	一途な思い	BD3-06	一途な思い
	9	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	10	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	11	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	12	M3-D	こちらもドールが勢ぞろい	OST-07	ドール集合
	13	M3-C	委員会の刺客	OST-12	刺客
	14	M3-F	逆転スタート!	OST-14	大逆転
	15	M2-D	行動開始 (敵)	OST-11	行動開始
	16	M2-A	ジワジワと裏で	OST-04	緊張
	17	M4-A	事件解決	OST-18	事件解決
予告	18	M6-D	次回予告		

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

何者かに操られ、戦いを挑んできたまないに応戦するうずめ。彼女を助けるため、ドール達をアウェイキングし応戦し、まないを正気に戻す。

本曲は高梨氏が、『『スマイル』の次にプリキュアの変身テーマを書いていたら』というifをイメージした曲。『スイートプリキュア♪』や『スマイルプリキュア!』の系譜に連なる、直系の曲である。

ラフレシアの君 (M5-B)

うずめとまないの前に現れたラフレシアの君。「希望相互扶助委員会」の仕業であると予想する。

マドレーヌのお節介 (S3)

うずめに頼りにされ、頑張ってしまうマドレーヌ。だが、空回りしてしまう。

コミカルでまったりとした曲調から始まり、最後は慌ただしくテンポアップして終わる。

委員会の策略 (M2-C)

カードの回収に失敗し、自分のドール達に罵詈雑言を浴びせる「残念王子」、吉良。

お風呂タイム (M4-C)

マニホールド空間のささら達の家を訪れた、まないのドール達。

一途な思い (M5-C)

うずめを想い、うずめの絵を描いていたマドレーヌ。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

水族館でドール達をアウェイキングするうずめ。しかしささら達は何かと理由をつけて水に入ることを拒む。

ドール集合 (M3-D)

うずめ達を助けるマドレーヌ。うずめは自分勝手な行いをマドレーヌに詫言る。

刺客 (M3-C)

自分のドールを巻き込んでささらと小明を攻撃させる吉良。

大逆転 (M3-F)

サバカードでカティアをサバコスチュームにしてしまううずめ。カティアはやけどばちになって向かっていく。

行動開始 (M2-D)

アロエに自らを犠牲にして攻撃させようとする吉良。

緊張 (M2-A)

カードの報酬として「伝説の鍵師」に金庫を開けさせた吉良。

事件解決 (M4-A)

うずめの部屋に戻ったドール達。しめじがパーソナルマークの凶案を描いて持ってくる。うずめはそれを採用。

第4話 「じめじめしめじ 残念王子の逆襲？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル	
アバン	1	M1-C Short	寂しい空間	OST-10	暗室空間	
	2	M6-A2	アヴァンナレーションバック			
A	3	M6-B	サブタイトル			
	4	M4-A	事件解決	OST-18	事件解決	
	5	(シューベルト「野ばら」オルゴール)				
	6	S4-A	しめじの回想	OST-20	しめじの回想	
	7	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略	
	8	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム	
	9	S4-B Light	深刻なうずめ			
	10	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll	
	B	11	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
		12	M5-A	ドラムンベース		
13		M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ	
14		M3-E	迫りくる敵	OST-13	緊迫	
15		M3-F	逆転スタート!	OST-14	大逆転	
16		M3-C	委員会の刺客	OST-12	刺客	
17		M2-D	行動開始 (敵)	OST-11	行動開始	
18		M5-C	一途な思い	BD3-06	一途な思い	
19		M4-E	諦め	OST-16	あきらめ	
20		(シューベルト「野ばら」オルゴール)				
予告	21	M6-D	次回予告			

暗室空間 (M1-C Short)

何故かダイエット用の金魚運動器にノリながら、アロエのことを案ずるしめじ。

事件解決 (M4-A)

鶯野家。母・みことに隠し事について訪ねられる。

野ばら (シューベルト) オルゴール

「前のマスター」との思い出にふけるしめじ。宝石箱のオルゴールの曲は、シューベルト作曲「野ばら」。

しめじの回想 (S4-A)

しめじと「前のマスター」との楽しかった思い出。アロエもそこに一緒にいた。

委員会の策略 (M2-C)

さらなる希望を叶えるため、希望相互扶助委員会と連絡を取る「残念王子」、吉良。次なる計略を練る。

お風呂タイム (M4-C)

しめじにハンバーガーをおごるうずめ。うずめは、悩んでいる様子のしめじの相談に乗りたいと言い出す。

深刻なうずめ (S4-B Light)

「前のマスター」との別れの記憶を思い出して、いたたまれなくなるしめじ。うずめを残して走り去ってしまう。

ドラムンベース (M5-A)

うずめとしめじの前に、吉良とアロエが現れる。吉良は、

アロエに旧知の中であるしめじを襲わせる。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

ドール達をアウェイキングするうずめ。

緊迫 (M3-E)

アロエに電環捕縛のカードを使わせる吉良。うずめのドール達は動きを封じられてしまう。しめじを電撃で攻撃し、うずめも巻き込まれてしまう。

大逆転 (M3-F)

うずめを傷つけられ、逆上するしめじ。「ステゴロのしめじ」と化して無双が始まり、吉良とそのドール達を倒してしまう。

刺客 (M3-C)

アロエに雷神カードを使い、しめじを攻撃させる吉良。

行動開始 (M2-D)

「伝説の不採用通知」で怒りに震える吉良。自己開放カードを使う。

一途な思い (M5-C)

ラフレシアの君が現れ、うずめにリカバリーカードでアロエを修復するよう進言する。

あきらめ (M4-E)

それでも吉良のために尽くす道を選んだアロエ。吉良は、心を入れ替えたようだった。

第5話 「ばたばたバイト はじめてのカティア？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M4-A	事件解決	OST-18	事件解決
	2	M6-A2	アヴェンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	M1-A	何という事はないいつもの日々	OST-03	日常
	5	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	6	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム
	7	S3	マドレーヌのお節介		
	8	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
	9	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
	10	S8-A	文化祭の賑わい		
B	11	S2-C	兵士ドールの攻撃	OST-06	兵士ドール
	12	M3-B	楽しい気分で戦い	OST-33	うきうっきーな戦い
	13	S1-C	ドールへのエントリー		
	14	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	15	M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	うきうっきーな毎日
予告	16	S6	小明の思い	BD5-06	小明の思い

事件解決 (M4-A)

カード部に入る決心をまないに伝えるうずめ。カード部にはもう一人新入部員がいたが、それはかがみだった。

日常 (M1-A)

夜、鶴野家。大量のお菓子を部屋に持ち込んで、みこに訝しまれてしまう。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

説教のために、ドール達をアウェイキングするうずめ。

お風呂タイム (M4-C)

次のお小遣いまで、お菓子禁止を言い渡すうずめ。まないは、ドール達にバイトをしてみることを提案する。

マドレーヌのお節介 (S3)

カティアのバイトを見守るうずめとかがみ。

文化祭の賑わい (S8-A)

TVに映ってしまったカティアとみこ。マドレーヌはコンパニオンガール、しめじはバスガイド、小明はライフル銃のメンテナンス、さらにはカツオ漁で汗を流していた。

兵士ドール (S2-C)

ドールをアウェイキングし、カティアとみこを襲わせる海洋。

うきうっきーな戦い (M3-B)

配達のために、翼カードを使って飛んでいくカティア。一部始終を一般人のおばさんに見られてしまうが、ラフレシアの君が映画の撮影だと言い張ってごまかす。

ドールへのエントリー (S1-C)

海洋の前に立ちはだかるかがみ。くのいち くう達をアウェイキングし、海洋に戦いを挑む。

委員会の策略 (M2-C)

「委員長」に報告を入れるかがみ。「第一級敵対者」であるうずめのデータを送る。

うきうっきーな毎日 (M1-B)

ドール達が稼いだバイト代を全部お菓子に変えてカード部部室に持ち込んできた。まないは、お菓子を食べた人が貯金箱にお金を入れることを提案する。

まないは「マスカレードカレーウキウキ」なるチーム名を提案する。

小明の思い (S6)

この回の予告篇音楽は、変則的に小明のテーマが使用されている。

第6話 「小明かりかり 拘束と献身？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M6-A2	アヴァンナレーションバック		
A	2	M6-B	サブタイトル		
	3	M3-B	楽しい気分で戦い	OST-33	うきうっきいな戦い
	4	M1-C	寂しい空間	OST-10	暗室空間
	5	M5-E	不安	OST-25	不安
	6	S1-B	ノスタルジー	OST-26	ノスタルジー
	7	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	8	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	9	M5-C	一途な思い	BD3-06	一途な思い
	10	M2-A	ジワジワと裏で	OST-04	緊張
	11	S4-B Light	深刻なうずめ		
	12	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	13	M4-E	諦め	OST-16	あきらめ
	14	M2-D	行動開始 (敵)	OST-11	行動開始
	15	M3-D	こちらもドールが勢ぞろい	OST-07	ドール集合
	16	S6	小明の思い	BD5-06	小明の思い
予告	17	M6-D	次回予告		

うきうっきいな戦い (M3-B)

買い物のために遠出するうずめ。ドール達をアウェイクングして、一緒にショッピングを楽しむ。

暗室空間 (M1-C)

様子がおかしい小明。マスターと仲良くなっても、捨てられたら辛いだけだと言い残してその場を離れる。

不安 (M5-E)

オフィリアの命ずるまま、うずめ達を誘うみいな。彼女は人間でありながら、ドールになりきっていた。

ノスタルジー (S1-B)

歩き疲れ、うずめの部屋でみこと一緒に寝てしまうカティア。

一途な思い (M5-C)

うずめに「この世で最も美しいものは『献身』だ」と話す、みいな。

緊張 (M2-A)

マニホールド空間のささら達の家にも、小明をヘッドハンティングしに来たオフィリア達。

深刻なうずめ (S4-B Light)

みいなをうずめに会わせた理由をオフィリアに尋ねるボンノバドール。オフィリアは、彼女たちならみいなを救ってくれるかも知れないと打ち明ける。

委員会の策略 (M2-C)

「希望相互扶助委員会」からうずめのカードを奪取するオファーを受けた、みいな。

あきらめ (M4-E)

小明に語りかけるみいな。富士見 (ラフレシア) と話す三笠の口から、彼女の過去が語られる。

行動開始 (M2-D)

突然、森のフィールドカードが発動する。オフィリア達が現れ、戦いを挑んでくる。

ドール集合 (M3-D)

うずめ達を救出しに駆けつけた小明。ヨーヨーで、次々と拘束を解いていく。うずめは小明を渡したくないと話す。マドレーヌはみいなを救いたいというオフィリア達の真意を問う。

小明の思い (S6)

友達として新たな関係を歩み始めた、みいなとオフィリア達。小明は、マスターを守る強さを得るために特訓していたのだった。

第7話 「心ころころ? あわせてひとつ」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M2-D	行動開始 (敵)	OST-11	行動開始
	2	M6-A2	アヴェンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	S2-C	兵士ドールの攻撃	OST-06	兵士ドール
	5	M5-B	ラフレシアのテーマ	OST-17	ラフレシアの君
	6	M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	うきうっきーな毎日
	7	M4-D	葬送行進曲		
	8	M3-B	楽しい気分で戦い	OST-33	うきうっきーな戦い
	9	S7-A	落ち込むうずめ	BD4-05	落ち込むうずめ
	10	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
	11	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
B	12	M4-E	諦め	OST-16	あきらめ
	13	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	14	M3-F	逆転スタート!	OST-14	大逆転
	15	M3-C	委員会の刺客	OST-12	刺客
	16	M4-C	お風呂タイム	OST-15	お風呂タイム
	予告	17	M6-D	次回予告	

行動開始 (M2-D)

うずめの前に委員会の細胞である清水が現れ、勝負を挑んでくる。二人はドール達をアウェイキングする。

兵士ドール (S2-C)

うずめのドール達と、チーム清水の激闘が始まる。チーム清水のチームワークの前に全く歯が立たないが、まないが駆けつけてゆがけに鎗矢を鑄させ、これを阻止。清水は撤退する。ちなみに清水はリジェクションを「ドロップアウト」と呼ぶ。

ラフレシアの君 (M5-B)

ラフレシアの君が現れ、うずめに「協力」カードを投げつけていく。

うきうっきーな毎日 (M1-B)

協力カードを使ってみるが、妙なアイテムばかりが出現してしまう。

葬送行進曲 (M4-D)

スポーツにかこつけたリア充サークルに恨みを燃やす清水。委員会に、リア充サークル潰しを希望する。

うきうっきーな戦い (M3-B)

協力カードを使いこなすために特訓を開始する、あれこれとトライするうちに、大砲のパーツのようなものが出現する。

落ち込むうずめ (S7-A)

うまいかかず、ぎくしゃくしてしまったうずめとささら。協力カノンの発動には、マスターとドール両方の力が必要だ

が、ドール達と心をつついでできないうずめ。

あきらめ (M4-E)

協力カードによって、かえってバラバラになってしまったうずめとドール達。マドレーヌは、うずめのことを案ずる。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

清水と対峙し、ドール達をアウェイキングするうずめ。うずめはドール達を助けるため、「戦車」カードを使用。「うずめタンク」へと変貌を遂げた。単身、チーム清水へ突撃するうずめタンク。

大逆転 (M3-F)

全員の心が一つとなり、協力カノンが発動。「例のドラマロール」を合図に、「例の口上」が述べられていく。

この曲も、高梨氏が「キュアメタル」を明確に意識して書いたもの。「発動のジングル」から始まって「必殺技アクション曲」へと繋がっていくスタイルは、『ハートキャッチプリキュア!』で確立され、『スイートプリキュア♪』、『スマイルプリキュア!』へと受け継がれてきた「キュアメタル」伝統のスタイル。

刺客 (M3-C)

うずめ達の前に姿を現した、アンヌ。プロトゼロにうずめのドール達を襲撃させる。あまりの速さに全く太刀打ちできないささら達。

お風呂タイム (M4-C)

全員で仲良く入浴するうずめとドール達。

第8話 「玉ねぎたまたま 文化の祭り？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	うきうっきーな毎日
	2	M6-A2	アヴェンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	S8-A	文化祭の賑わい		
	5	M4-A	事件解決	OST-18	事件解決
	6	S9	かがみの苦悩	OST-23	かがみの苦悩
	7	M2-A	ジワジワと裏で	OST-04	緊張
	8	S8-B	非音楽的なサウンドコラージュ		
	9	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
	10	OP AR		OST-32	Now! Fantasia Doll
B	11	S1-B	ノスタルジー	OST-26	ノスタルジー
	12	M5-E	不安	OST-25	不安
	13	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	14	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	15	M1-C	寂しい空間	OST-10	暗室空間
	16	M5-D	友情という形の愛	OST-24	友情
予告	17	M6-D	次回予告		

うきうっきーな毎日 (M1-B)

聖悠学館の文化祭「聖悠祭」の朝。うずめ達カード部はカレー屋さん「マスカレードカレーウキウキ」の出店準備に勤しんでいた。

文化祭の賑わい (S8-A)

聖悠祭が開幕。うずめはカード部のほかにテニス部や自クラスも掛け持ちして奔走する。

事件解決 (M4-A)

一緒に中等部を見てまわる、みことカティア。途中で委員会の細胞、リンと遭遇する。

かがみの苦悩 (S9)

うずめのカードを奪う任務とうずめと仲良くなりたい思いの狭間で葛藤するかがみ。

緊張 (M2-A)

他の部員と衝突し、一人で文化祭で上映する映画を製作した映画研究部部長、藤玖。

非音楽的なサウンドコラージュ (S8-B)

藤玖の撮った極めて難解な映画「エンドレスワルツ」のBGMとして使われている楽曲。

ノスタルジー (S1-B)

かがみに、うずめが「かがみと仲良くなりたい」と思っていることを教えるみこ。かがみは、兄との記憶を振り返っていた。

不安 (M5-E)

みこを見失ってしまうかがみ。みこは「ジミーちゃん」

にキャンディーをもらっていただけだったが、かがみはみこを探して走り回る。

委員会の策略 (M2-C)

ドールをアウェイキングし、うずめを待ち構えるリン。だが、そこに現れたのはかがみだった。一方、藤玖は委員会と希望を好感し、映画研究部に大量の観客を入れる。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

うずめの前に現れた藤玖。ドールをアウェイキングする。うずめもドール達をアウェイキングし、応戦する。ちなみに、藤玖はアウェイキングのことを「フェードイン」と呼ぶ。うずめは「包丁・まな板」カードと「玉ねぎ」カードを使い、ドール達全員で玉ねぎを刻み始め、オニオンライスシャワーを浴びせる。

暗室空間 (M1-C)

上映会場に戻った藤玖。みな途中で退室し、最後まで観ていたのは、みこただ一人だけであった。みこの「おもしろかった」という言葉が、藤玖の救いとなる。

友情 (M5-D)

「マスカレードカレーウキウキ」のトッピングサービス券を作っていた、かがみ。うずめはかがみに手をさしのべ、二人は手を取り合う。

第9話 「かがみかみかみ? まぎれる気持ち」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M1-B	うきうきと楽しい気分	OST-09	うきうっきーな毎日
	2	M6-A2	アヴェンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	M2-A	ジワジワと裏で	OST-04	緊張
	5	M2-B	いがみ合い		
	6	M1-C	寂しい空間	OST-10	暗室空間
	7	M5-E	不安	OST-25	不安
	8	S9	かがみの苦悩	OST-23	かがみの苦悩
	9	M3-C	委員会の刺客	OST-12	刺客
	10	OP AR		OST-32	Now ! Fantasista Doll
B	11	OP AR		OST-32	Now ! Fantasista Doll
	12	S2-B	緊張の戦い	OST-08	緊迫した戦い
	13	M3-E	迫りくる敵	OST-13	緊迫
	14	S11-C	喪失感	OST-29	喪失感
	15	M2-D	行動開始 (敵)	OST-11	行動開始
	16	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
予告	17	M6-D	次回予告		

うきうっきーな毎日 (M1-B)

カード部部屋でくつろぐ、うずめ、まない、かがみと彼女たちのドール。総勢 18 名が 8 畳の空間にひしめいている。

緊張 (M2-A)

三笠と連絡を取っている富士見。一方、かがみは委員会からうずめのカードと引き替えに兄の居場所を教えるを持ちかけられていた。

いがみ合い (M2-B)

パフェを奢ったかわりに、カードを全部寄越せと言い出すかがみ。様子のおかしいかがみを、うずめは心配する。

暗室空間 (M1-C)

かがみのことで小町に相談するうずめ。小町はうずめに、たくさん悩んで答を出すようにとアドバイスする。

不安 (M5-E)

かがみにドール達を渡すことも、かがみと戦うこともできないと葛藤するうずめ。

かがみの苦悩 (S9)

かがみは兄を見つけるために、うずめのカードを奪う決心をする。かがみの記憶。

刺客 (M3-C)

彼女の兄・真は、数年前に突如謎の疾走を遂げていた。そこに入り込んでくる、うずめとまないとのおい出。かがみもまた、葛藤していた。

緊迫した戦い (S2-B)

ドール達をアウェイキングする、うずめとかがみ。仲良くなったドール達を、二人は戦わせてしまう

緊迫 (M3-E)

協力カンを発動させるうずめ。かがみは「協力ブレード」で対抗する。戦いの末に、うずめはカードを渡すこともかがみと戦うこともしないと決意する。

喪失感 (S11-C)

うずめに、兄を探したいという目的を話すかがみ。自分を嫌いになれと言い放つが、うずめは動せず、一緒に兄を探すと誓う。泣き出してしまふかがみ。

行動開始 (M2-D)

うずめ達の前に現れるプロトゼロ。うずめは協力カンを発動させるが、プロトゼロには効かなかった。

委員会の策略 (M2-C)

委員会にマドレーヌのカードが奪われてしまう。うずめ達の前に姿を見せるアンヌ。委員会の仲間にならないかと提案する。

第10話 「ぽかーんとポーカー 委員会の挑戦？」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	M6-A2	アヴェンナレーションバック		
A	2	M6-B	サブタイトル		
	3	M4-D	葬送行進曲		
	4	M2-B	いがみ合い		
	5	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	6	S10	トランプゲーム		
	7	S10	トランプゲーム		
	8	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	9	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	10	S10	トランプゲーム		
	11	M5-A	ドラムンベース		
	12	M3-F	逆転スタート!	OST-14	大逆転
	13	M6-D	次回予告		

葬送行進曲 (M4-D)

マドレーヌ奪還のために行動しないうずめを急かすドール達。再び険悪な雰囲気になってしまう、うずめとドール達。

いがみ合い (M2-B)

つつい紅茶を「6杯」淹れてしまったうずめ。呼びかけに応じないドール達。

委員会の策略 (M2-C)

委員会のアンヌから、ポーカーでの勝負を持ちかけられたうずめ。

トランプゲーム (S10)

ポーカーが得意だという母・みことが急遽参戦。紅茶を淹れながら、うずめにポーカーの手ほどきをする。

トランプゲーム (S10)

慣れた手つきでカードをシャッフルしていくみこと。アンヌは彼女の技量に感心する。戸惑ううずめをよそに、みこととアンヌの駆け引きが続く。

トランプゲーム (S10)

勝負を続行する3人。みことは、アンヌからマドレーヌのカードを取り戻すが、夕食の仕度のためにキッチンへ戻る。カードは、うずめとアンヌのバトルに委ねられた。

ドラムンベース (M5-A)

アンヌの居場所に気付いたささら達。うずめ達のカードバトルと並行してその場所に急行するが、プロトゼロに迎撃される。

大逆転 (M3-F)

カードを全てチェンジするうずめ。一方、ささら達もプロトゼロと戦っていた。

第11話 「小町まちまち? 約束の献身」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
アバン	1	S2-A	ささらの過去語り	OST-21	ささらの過去
	2	M6-A2	アヴァンナレーションバック		
A	3	M6-B	サブタイトル		
	4	M5-E	不安	OST-25	不安
	5	S11-B	葛藤するうずめ	BD6-05	葛藤
	6	S11-A	カードの秘密	OST-28	カードの秘密
	7	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	8	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	9	M2-C	委員会の始動	OST-05	委員会の策略
	10	M2-A	ジワジワと裏で	OST-04	緊張
	11	S4-B	深刻なうずめ	OST-22	悩むうずめ
	12	S7-B	必死な戦い	OST-27	必死 (戦闘)
	13	S11-C	喪失感	OST-29	喪失感
予告	14	(シューベルト「野ばら」オルゴール)			

ささらの過去 (S2-A)

ドール達の記憶の封印を解く小町。ささら達の元のマスターは、小町であった。

不安 (M5-E)

ドール達と小町。ささらは小町に自分たちを捨てた理由を問う。小町は、自分がマスターのままではささら達の成長が望めなくなったからだと答える。

葛藤 (S11-B)

ささら達を連れて帰ろうとする小町。マドレーヌとしめじが応じるが、小明とカティアは躊躇する。ささらは、うずめの意志を問いたです。全く引き留めようもしないうずめに、失望を隠さないささら。

カードの秘密 (S11-A)

「ファンタジスタドール」の秘密を語る富士見と三笠。そこには、失踪したかがみの兄も関係していた。突如として現れるジミーちゃん。

委員会の策略 (M2-C)

富士見は、うずめ達にこのままドールと一緒にいてほしいと話す。しかし、うずめはどうしていいのかわからなくなってしまった。

緊張 (M2-A)

うずめにソネットの話を打ち明ける小町。彼女が希望相互扶助委員会を作ったのは、ソネットを復活させるためだった。

悩むうずめ (S4-B)

ささらに他人行儀に「うずめさん」と呼ばれてしまったうずめ。小町にカードを渡すように言われるが、自分の

意志をはっきりと示せないうずめ。ささらとの口喧嘩の中で、思わず小町のところへ行けと言いつつ放ってしまう。それを受けて、うずめに「伝説の不採用通知」を突き付けるささら。うずめはその場を立ち去ってしまう。

必死 (戦闘) (S7-B)

ささら達の置き手紙を見つけるうずめ。ささら達は、うずめのために誕生日プレゼントを部屋に隠していた。うずめの誕生日はずっと先だが、データを引き出されたカードは記憶を含めて完全に消滅してしまうからだった。うずめは必死に部屋中を探す。

喪失感 (S11-C)

小町に、ささら達は渡せないと告げるうずめ。うずめは小町からユークリッドデバイスを受け取り、リジェクションに成功する。彼女はまだ、ささら達のマスターだった。小町は、うずめと戦ってカードを手に入れる決断を下す。

野ばら (シューベルト) オルゴール

変則予告音楽として、第4話で使われたオルゴール曲が再び使用された。

第12話 「希望うきうき みんなきらきら」

本篇	No.	M- No.	メニュー	収録	タイトル
A	1	M6-B	サブタイトル		
	2	M3-C	委員会の刺客	OST-12	刺客
	3	M3-A	メインテーマ	OST-01	ファンタジスタドールメインテーマ
	4	M3-D	こちらもドールが勢ぞろい	OST-07	ドール集合
	5	S2-B	緊張の戦い	OST-08	緊迫した戦い
	6	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
B	7	OP AR		OST-32	Now! Fantasista Doll
	8	S7-B	必死な戦い	OST-27	必死（戦闘）
	9	S11-C	喪失感	OST-29	喪失感
	10	S12-B	楽しかった過去の回想	OST-31	楽しかった過去
ED	11	S12-C	エンドシーケンス	OST-34	エンドシーケンス
C	12	ED	「DAY by DAY」 TV サイズ	OST-36	

刺客 (M3-C)

うずめと小町の対峙。小町は「希望」とは何かについて語り始める。

ファンタジスタドールメインテーマ (M3-A)

うずめと小町、アウェイキング。

ドール集合 (M3-D)

強いチームワークでプロトゼロに挑むささら達。

緊迫した戦い (S2-B)

プロトゼロに歯が立たないささら達。かがみとまないがドール達を連れて加勢に入る。総勢 15 名のドール達が、プロトゼロに立ち向かう。

必死（戦闘） (S7-B)

「協力カノンデラックスバスター」を発動させるうずめ達。それでもプロトゼロには歯が立たない。真とアンヌも、うずめ達のいる場所へ向かう。

喪失感 (S11-C)

小町に対して、自分たちの思いを主張するドール達。小町はプロトゼロに排除を命じるが、プロトゼロは涙を流し、小町に初めての反抗を見せる。うずめ達は、小町の頑なな心をとかしていく。

楽しかった過去 (S12-B)

小町に対し、別のソネット復活の方法を提言する真。ドール達も、ソネット復活のために協力を申し出る。かつての委員会の細胞達もドールを引き連れてやってきた。

エンドシーケンス (S12-C)

リジェクションし、マニホールド空間へ戻る大勢のドール達。プロトゼロも、小町のためにマニホールド空間へ。かつてうずめ達と戦ったドール達が、心一つにして広大なネットの海からソネットのかけらを探す。

最終話は変則フォーマットのため、エンドクレジットが本篇中に流れ始める。

「DAY by DAY」 TV サイズ

観覧車に灯り始める光。すずりがままないに呼びかける。観覧車に全員集合しているドール達。観覧車の円軸にバラのつぼみが現れ、中からソネットが現れる。小町はソネットと再会し、大粒の涙を流した。うずめは「うん、今日もいい一日だ。」と呟き、物語は幕を下ろす。

ファンタジスタドール
BGM 研究本 01

Special Thanks 高梨康治 様

2014年5月6日 「レインボー・フレーバー10」初版発行

著者	祥太
発行	SHOWTIME http://showtime.precure.tv/
印刷	金沢印刷 様
